

陸軍飛行学校 桶川分教場

～荒川沿いに佇み特攻隊の訓練基地として使用されていました～
かつて飛行訓練に使われていた滑走路があった荒川河川敷は、
今でもホンダ航空の滑走路として使われています。



熊谷陸軍飛行学校桶川分教場



熊谷陸軍飛行学校桶川分教場とは

熊谷陸軍飛行学校桶川分教場は、1937（昭和12）年6月に荒川沿いに開校し、荒川河川敷を滑走路として用いて、少年飛行兵や学徒出陣の特別操縦見習い士官など、延べ1,500～1,600人の航空兵を訓練しました。

戦争末期には、特別攻撃隊（特攻隊）の訓練基地となり、1945（昭和20）年4月には特攻隊員12人を鹿児島県の知覧特攻基地へ送り出しました。

戦後は、海外からの引揚者等のための寮（通称：若宮寮）となり、1956（昭和31）年頃には64世帯、300人程度が暮らしていましたが、2007（平成19）年3月に最後の入居者が転出され、現在は寮としての役目を終えています。

分教場時代の建物は、一部取り壊し又は焼失等したものもありますが、兵舎棟や守衛棟などの建物が現存しています。寮時代に住居用に改造こそされているものの、当時の雰囲気は今も色濃く残した貴重な建物です。

2016（平成28）年度よりしばらくは復元整備中のため、見学ができません。



知覧に向け出発した第79振武特別攻撃隊

▶ 旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会

2004（平成16）年度の「平和を考える10日間事業」（桶川市主催事業）の一環で、分教場における当時の訓練風景の写真等が展示され、このことをきっかけに当時を知る関係者が集まり、2005（平成17）年に「旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会」が結成されました。

跡地では週末を中心にガイドボランティアを実施しておりましたが、建物の老朽化及び安全確保のため、2015（平成27）年12月から、建物の内部の公開及びボランティアガイドについては中止しています。

▶ 旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場の保存整備

旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場は、1937（昭和12）年開校時の兵舎など複数の木造建造物が現存しています。

桶川市では、旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場について、建物群の価値や景観を最大限に活かした整備を図る方針を決定しました。

整備事業推進のため、桶川市は基金を創設し、2014（平成26）年10月1日から寄附のお願いをしています。



兵舎（宿舎）棟外観



便所棟

コ ラ ム 滑走路は現在も使われています

熊谷陸軍飛行学校桶川分教場で飛行訓練に使われていた滑走路は、現在のホンダ航空の滑走路と同じところで、川島町側、ホンダ航空社屋脇の堤防から滑走路に向かう広々としたところには、格納庫と現地事務所がありました。



飛行訓練のようす



ホンダエアポート

アクセス

熊谷陸軍飛行学校桶川分教場

交通：JR高崎線「桶川駅」下車、東武バス「川越駅行」約10分、「柏原」下車

住所：埼玉県桶川市川田谷2335番地

ホンダエアポート

交通：JR高崎線「桶川駅」下車、東武バス「川越駅行」乗車、「山ヶ谷戸」下車、徒歩15分

住所：埼玉県比企郡川島町大字出丸下郷53-1



熊谷陸軍飛行学校桶川分教場

